

つながる、ささえる、680万

連合救援ボランティアレポート

第 43 号
2011 年 7 月 7 日

| 1

小規模避難所に支援を 連合埼玉 避難所巡回・支援の取り組み

東日本大震災の発生から 4 カ月を迎えようとしています。いまだに多くの被災者の方が避難所生活を余儀なくされています。この間、避難所によって届いている支援に差があることが指摘されています。マスコミ報道で取り上げられた避難所には多くの支援の手が差し伸べられる一方、報道対象にならない多くの避難所では、必ずしも十分でないという声が聞かれます。

こうした中、連合埼玉は、県内の小規模避難所を巡回して避難者の方々とコミュニケーションを取りながら、ニーズを把握し、必要な支援につなげる取り組みを行っています。

連合埼玉は、5 月 23 日に県内の避難所をまわり、避難所の状況や必要な支援物資について聞き取り調査を実施しました。この時点での埼玉県内の避難者は約 2,400 人。福島県双葉町から約 1,000 人が避難している加須市の他、数十人規模の避難所が県内各地に点在しています。連合埼玉は、事前に各自治体に調査実施を打診し、是非やってほしいとの回答を得て 7 ヶ所で聞き取りを実施。このうち熊谷市、幸手市、杉戸町の 4 ヶ所の避難所から支援の依頼を受けました。

避難所ごとに置かれている状況は様々で、避難者が減りスペースに多少余裕がある避難所がある一方、一人のスペースが一畳程度で冷暖房がない施設もあったとのこと。ボランティアや支援物資の量も避難所の立地によって異なり、小規模の避難所では物資不足も発生していたそうです。

聞き取りの結果、不足している日用品を確認した連合埼玉では、さっそくその日夕方から確保に走り回りました。そして翌日、4 つの避難所を再び訪ね、避難者の皆さんに夏物衣料、お茶、コーヒー、シャンプー、歯磨き粉、蚊取り器などの物資を直接手渡しました。「皆さんから、要望した翌日には対応してくれたと感謝された。訪問の時期が遅れた感はあるものの、直に皆さんから必要な物資を聞くことができ、それに応えることができ、勉強させてもらったという気持ちが強い（連合埼玉）」

その後も、連合埼玉では引き続き訪問調査を実施し、6 月に入って三郷市、久喜市の避難所にも支援物資を寄贈しており、引き続き定期的に取り組むこととしています。

この取り組みに先だって、連合埼玉は、県内避難者への支援に充てるため、県中央メーデーで震災復興支援カンパと模擬店を実施、その取り組みで集まった約 105 万円が物資購入費用として活用されています。



活動レポート

宮 城

●美里拠点

【7/6】東松島市内で側溝の泥出し作業を実施。

現地から 現場は前々日の豪雨で側溝があふれ冠水しており、住民は雨のたびに不安を感じていました。午前中の作業で水の流れは良くなったものの水位は下がらず。その後、幹線側溝（深くて幅が広い）の中で土砂が溜まっていることを確認し、午後はその除去作業に集中。その結果、水位改善に成功しました。休憩時には住民の方から栄養ドリンクを差し入れて頂き、気合いを注入しました。



(写真左) 土砂除去前の幹線側溝。土砂がぎっしり詰まっている。

(写真右) 土砂除去後の幹線側溝。横の側溝からの管も顔を出し、水の流れが改善された。

福 島

●福島拠点

【7/6】相馬班、南相馬班、新地班の3班に分かれて活動。いずれも個人宅の側溝清掃、敷地内、畑のがれき撤去を実施。

●いわき拠点

【7/5～6】いわきボランティアセンター資材班業務、四ッ倉地区、薄磯地区でのがれき分別、民家脇側溝の土砂除去を実施。